

座間市の地下水

地下水とは

地下の地層は、礫（砂利）、砂、泥などの物質が運ばれて堆積したもので、これらの中には粒同士の隙間ができます。こうした隙間に雨水などがしみ込んだものを地下水といいます。

地下水の特徴

- (1) 地層中での自然ろ過による良好な水質
- (2) 年間を通じてほぼ一定な水温
- (3) 循環速度が遅いことによる、地表の気候に左右されない貯水量
- (4) 循環速度が遅いことによる、水位、水質の回復の遅さ

地下水が溜まりやすい地層、地形

地下水は、「透水層」「帯水層」と呼ばれる隙間を多く持った砂礫の地層に貯えられていますが、この地層だけでは地下水は溜まらずに自然流下してしまいます。

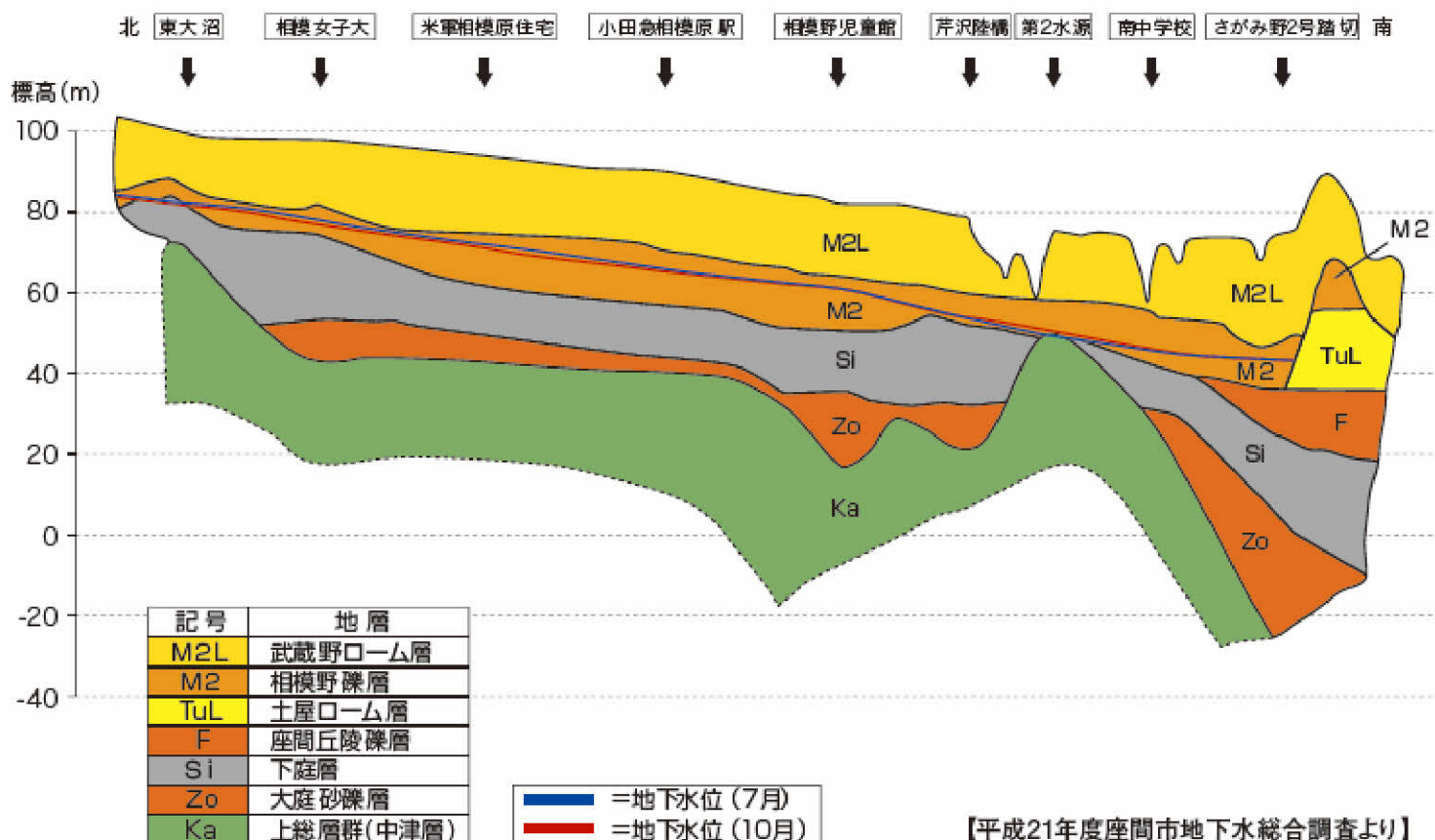
しかし、帯水層の下に不透水層という粒の非常に細かい（隙間の少ない）緻密な地層があると、地下水の流下を妨げるようになります。この地層が地下で器のような構造をしていると、更に地下水は溜まりやすくなります。

座間市の地下構造

座間市内の台地部、丘陵部などの地下には、流れを変えてきた相模川が現在の位置に収まるまでに運ばれてきた大量の砂礫層が帯水層として広がっており、厚い部分では約60mあります。

そして、この帯水層の器（底）の役割をする地層を不透水層、難透水層（水が漏れにくい地層）といい、座間市周辺ではその役割をしているのが上総層群（中津層）です。しかも、この上総層群（中津層）が市南部の地下でゆるやかに盛り上がっており、地下水の流下をさえぎっているため、いわば「地下のダム」の役割をしています。（下図：地質断面図参照）

座間市の地質断面図（南北方向）



座間市内の地下水採取

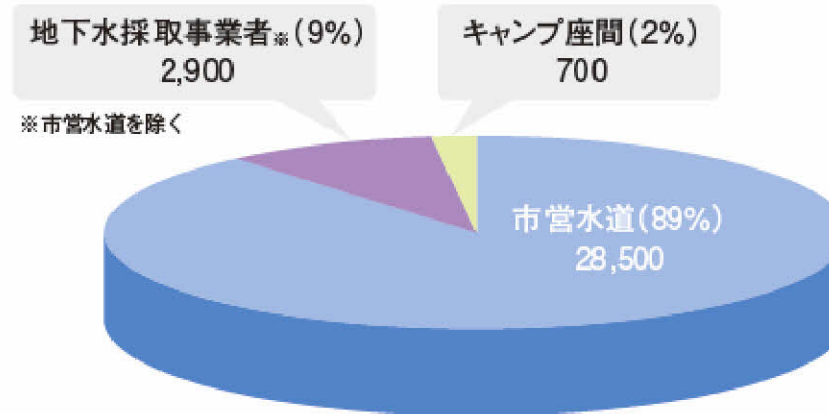
地下水採取の実態

平成26年の座間市内の地下水採取量（届出井戸に限る）は、日量32,100m³で、その内訳は下図のとおりでした。

本市の水道は地下水を主水源としておりますが、水源を多方面に求めることにより、将来にわたって安定して水を供給できるよう、通常時は配水量の約15%を神奈川県企業庁から受水しています。

※水道の水質については、座間市のホームページをご覧ください。[URL <http://www.city.zama.kanagawa.jp/>]

平成26年地下水採取の内訳（単位：m³）



経年変化

昭和54年から平成6年までは、日量50,000m³を超えていましたが、その後減少し、平成26年は日量32,100m³の地下水採取となっています。

地下水採取量の経年変化（座間市全域）

